

平成27年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第2回葛飾区行政評価委員会第一分科会
開催日時	平成27年7月15日(木) 午後2時から4時
開催場所	葛飾区役所新館7階 703会議室
出席者	【委員7人】 大石会長、石井委員、金子委員、佐々木委員、西山委員、三宅委員、望月委員 【区側7人】 事務局(経営改革担当課長、事務局職員3人) 中央図書館(中央図書館長、事業推進係長、図書担当係長)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認を行った)

2 事務事業の概要説明及びヒアリング

・図書館ボランティア育成事業

大石会長 : 図書館ボランティア経費の「マルチメディアデジター作成ボランティア講習会委託」とはどのような事業なのか。

中央図書館 : まず始めに「マルチメディアデジター」とは、目や耳が不自由な方を対象としたデジタル図書資料で、画像と文字が表示されると同時に、音声で文字を読み上げるというものである。その資料を作成するボランティアを養成するための事業である。マルチメディアの作成にあたっては専門的な機材等が必要なことから、業者委託で実施をしている。また、講習会は全4日間の日程で隔年で実施している。

大石会長 : 隔年で実施している理由はなにか。

中央図書館 : 希望者の数と経費等の実績から勘案し、隔年で実施している。

A委員 : 「基本情報」の「概要」の中に「ボランティア人数の拡大を図る」との記載があるが、現状としてボランティアの人数が不足しているということか。

中央図書館 : 現状として大きく不足しているというわけではない。

B委員 : ボランティア登録者の年代ごとの構成割合はどうなっているか。
中央図書館 : 個人情報であるため、一人ひとりの年齢までは把握していない。
B委員 : 割合的には女性が多いのか。
中央図書館 : そのとおりである。
C委員 : 学校で読み聞かせボランティアとして活動している人は図書館の読み聞かせボランティアとしても活動しているのか？
中央図書館 : 人によって異なる。学校のみで活動している人もいれば、学校以外で活動している人もいる。
C委員 : 学校で読み聞かせボランティアとして活動している人など、実際に読み聞かせを行っている人に図書館のボランティアとしても活動していただけるよう、働きかけを行っていくとよいと考える。
D委員 : 図書館ボランティア育成講座を受講した人は、学校や保育園からの要望を受けて、読み聞かせボランティアとして依頼先に出向くことがあるのか。
中央図書館 : そのとおりである。
E委員 : 依頼に基づき読み聞かせを行った場合、費用は発生するのか。
中央図書館 : 費用は発生しない。
D委員 : 別紙2の「中央図書館ボランティア育成講座実績」の中で、「読み聞かせボランティア講座（初級）」の定員が25名、応募者が38名、受講者が84名となっているが、定員を大幅に超えた受講者がいたということなのか。
中央図書館 : 講座は合計4回行われており、延べの受講者を計上している。
D委員 : マルチメディアデイジーの利用数はどのくらいなのか。
中央図書館 : 26年度は500タイトルの貸出を行った。
D委員 : 借りた人が500人ということか。
中央図書館 : 何人が借りたかの実績は把握していない。
D委員 : 目標からして500タイトルの貸出実績は多いのか。
中央図書館 : マルチメディアデイジーは障害をお持ちの方など、利用する対象者が限定される資料であるため、貸出数の目標は定めていない。
E委員 : ボランティア数の目標はどれくらいか。
中央図書館 : 現状数である350名程度を維持していきたいと考えている。
C委員 : ボランティア登録は毎年更新するものなのか。
中央図書館 : 更新するものではない。
C委員 : ボランティアを辞退する意思を表明しない限りは、実態として活動していなくてもボランティアの人数としてカウントしているのか。
中央図書館 : 個人によって活動の多い少ないはあるが、活動していない方はボ

ランティアの人数に含んでいない。

大石会長 : ボランティア育成講座の講師はどういう方が選ばれているのか。

中央図書館 : 読み聞かせボランティア講座の初級であれば、本の読み聞かせの重要性を理解されている方、中級講座では、読み聞かせを行っていく際、どのようなプログラム構成で実施していくのが良いのか等を熟知されている方などを選定基準の一つとしている。

また乳幼児対象の読み聞かせ講座については絵本の読み聞かせが乳幼児の脳の発育に与える影響について、専門的な知識を持った講師も招いている。

E委員 : 講師の選定は誰が担当しているのか。

中央図書館 : 読み聞かせを担当している図書館職員が行っている。

E委員 : 今後も図書館ボランティアの育成は推進すべきであると考えますが、ボランティアを担う人の養成を行っていくためのコストとしては低いと感じる。

大石会長 : ボランティアの交通費は支給されるのか。

中央図書館 : ボランティア育成講座の講師には支給しているが、ボランティアには支給していない。

E委員 : それでも活動してくれるのはありがたいことであると思う。

D委員 : ボランティアの数を拡大することや、講座を受講し、早期に活動に結びつけることも大事である。その一方で子どもへの読み聞かせボランティアは子どもの精神活動を高める重要な役割を担うものであるため、ボランティアの資質等の向上など、人材育成の取り組みも重要であると考えます。よって読み聞かせボランティアの人材育成にも経費をかけて取り組む必要があるのではないかと考える。

F委員 : ボランティア交通費は支給できないか。

大石会長 : 今後の答申で提案していきたいと考える。

B委員 : ボランティア育成講座の初級のカリキュラムを全部受講しないとボランティアとして活動できないのか。

中央図書館 : 活動できないというわけではないが、講座を受講を通じて読み聞かせについて学んでいただいてから実際に活動をしてもらうようにしている。講座の内容としては初めに読み聞かせについての講義があり、読み聞かせボランティアとして活動している人の体験談等の講義、読み聞かせをするにあたっての本の選び方についての講義を受講していただいたのち、最後に読み聞かせの発表会を行うというカリキュラムで実施している。

E委員 : 利用者から対応が困難な要求がある場合も考えられるため、ボラ

ンティアが対応するには限界があるように感じる。そのため、例えば宅配サービスを実施するにあたって民間企業とのタイアップなども考えられるのではないか。

中央図書館：宅配ボランティアを担ってくれる人がいるかが課題であると考えている。

また、利用者から対応が困難な要求があることも予想される。そのため、難しいケースについては職員で対応することなども想定している。

D委員：現時点では宅配ボランティアの希望者に対してはどのような内容の説明会、研修会を行う予定なのか。

中央図書館：ボランティアセンターに要請し、ボランティア全般についての講義を実施するとともに、ハンディキャップサービスの理解を深めていただくため、担当している図書館職員による講義を考えている。

大石会長：宅配ボランティアについての周知はどのように行っていくのか。

中央図書館：広報かつしかや、ポスターの館内掲示により周知していく。

大石会長：そのほかに効率の良い周知の方法は考えられないか。

A委員：町会の回覧板、町会の理事会等での周知が有効かであると思う。

B委員：図書資料の貸出の際に、周知用にしおりを配布することなどが考えられるのではないか。

A委員：宅配ボランティアはいつごろから始めるのか。

中央図書館：具体的な時期は未定だが、目標は来年度より活動を開始したいと考えている。

A委員：調布市が宅配ボランティアの取り組みの先進自治体ということだが、葛飾区の近隣では同様の活動をしている区はあるのか。

中央図書館：墨田区も取り組んでいる。

E委員：実際に取り組みを始めた際、どのようなコストがかかるか等、調布市から聞き取りは行ったのか。

中央図書館：ボランティア保険の加入などの費用はかかるが、それ以外はかからない。

C委員：無償のボランティアとするのか否かはこれから検討していくのか。

中央図書館：そのとおりである。障害等により来館できない人へのサービスをどうするのかは図書館の以前からの課題である。そのため、来館しなくても自宅で資料の予約ができる仕組みづくりを進めてきた。そのような中で障害があつて来館できない人へのサービスの充実策の一つの手段として宅配ボランティアが考えられる。宅配ボランティ

アは東京都以外でも行っている自治体はある。中には報償費ではなく、宅配ボランティアに図書カードを交付している自治体もある。葛飾区での運用については今後、図書館のハンディキャップ委員会で検討していく。宅配ボランティアは本来の目的から外れ、利用者からの要望を聞くという性格のものになってしまうおそれがある。活動を担っていただくボランティア一人ひとりが活動の重要性、意義を理解し、やりがいを持って活動していただけるよう、ボランティアの養成に取り組んでいきたいと思う。

D委員 : 今の視点は非常に重要である。ボランティアを担う人がそのような高尚な考えをもって取り組めるような仕組みづくりをぜひ進めてほしい。

C委員 : 人と人とのつながりは非常に重要なことである。そのような視点から考えても宅配ボランティアは必要と考える。

大石会長 : ボランティアとして活動する人は、ただの図書資料の運搬をするというだけでなく、その活動の中から意義を学んでいくものである。

A委員 : ボランティア活動を行うことについての意義を教育の一環として行っていくのも重要なことである。

3 その他

4 閉会